

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本学は、「医療人たる前に、誠の人間たれ」という建学の精神のもとに、地域医療に貢献する医療人育成を使命として設立されました。学則には、「まず人間としての教養を高め、十分な知識と技術とを習得し、更に進んでは専門の学理を極め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献する」ことが掲げられています。医学教育・教養教育を通して、優れた資質と深い人間愛を有する医療人、研究者、人格的に成長できる人材の育成が、本学の目指すところです。

医学部では、次のような人材を求めています。

生命倫理を尊重し、医学を修得し実践するための知性と科学的論理性を有している。

広い視野でものごとを捉え、自律的かつ積極的に課題を発見し、解決することができる旺盛な探求心を有している。

病む人・悩める人の体と心を理解し、彼らに向きあう強い意志と情熱を有している。

世界的視野から医学の進歩と発展に貢献するという向上心を有している。

さまざまな地域において、医療に誠意をもって貢献しようとする利他精神を有している。

生涯にわたる継続的な学修をするため、自ら学ぶ意欲と積極性を有している。

自己の身体的および精神的健康に気を配る実績を有している。

これらの資質を備えた方を受け入れるにあたって、一般選抜、学校推薦型選抜および歯科医師学士編入学者選抜で、学生を募集して選抜します。

一般選抜では、生命科学を学ぶ知的能力が身についているかどうかを判断するために、筆記試験を課しています。数学と理科（物理、化学、生物のうち2科目）では、大学での学びに必要な基礎的な知識と論理的思考能力を備えているかどうかを確認します。あわせて、最新の医学知識の学修と収集、国際的な医療活動や研究成果の発信に必要となる英語を試験科目に加えています。

学校推薦型選抜では、基礎学力試験（英語、数学、理科）および調査書によって、大学での学びに必要な基礎的な知識を備えているかどうかを確認するとともに、志望理由書によって、将来、医師となるための熱意や自覚を持っているかどうかを確かめます。

学士編入学者選抜は、基礎的な生命科学の知識を有す歯科医師が、より短期間で医師としての知識・技能を修得できる制度です。選抜試験においては、生命科学の基礎知識や一般教養を問います。

上記いずれの入試区分においても、バランスのとれた人格的資質や基本的なコミュニケーション能力を有し、地域医療と研究にかける意欲を有し、かつ自己管理ができることを確認するために、面接をおこないます。また、課題を抽出して解決する能力および論理展開能力を見るために、学士編入学者選抜では小論文を課し、学校推薦型選抜では multiple mini interview をおこないます。

なお、入学者の受け入れにあたっては、民族、宗教、国籍、性別および性的指向などを問わず、多様な人材を募集しますが、大学設立使命に則って地域性を考慮した入試区分の枠を設けます。